

日本学術会議について

朝日新聞社総合研究センター

見角 鋭二

現状の問題点

組織・運営について

- 1) 「総会至上」
- 2) 部の縦割り構成と研連の固定化。
- 3) 研連の活動基盤。
- 4) 学術団体の把握。
- 5) 所管、経験が蓄積されない構造。

説明責任、情報発信について

- 1) 「勧告権」。「後はよきに計らえ」式文化。
- 2) 情報発信ルート・形態の固定化。
- 3) お山の大将症候群。
- 4) タイミング意識。

会員・研連委員

- 1) なくても誰も困らない。研究者には参加のメリットがない。
若年層の学術会議離れ。
- 2) 選出過程の実態が「見えない」選挙制度。
- 3) 一律3期限り任期制。

体質について

- 1) 「赤デミー」のイメージ。
- 2) バランス感覚失調症。
- 3) 政治が嫌いふり症候群。
- 4) 行動力不足。象牙の塔で高見の見物。
- 5) 理念不足。
- 4) 自浄力欠如。

以上